

1. 単元名 「屋久島のイングリッシュ・ネイチャーガイドになる」

2. 単元の目標

- 屋久島の自然について、カードにまとめ、ネイチャーガイドとして外国人観光客に、簡単な英語で伝えられるようになる。 (知識及び技能)
- 屋久島で実際に活動されているネイチャーガイドの方から学び、自分たちでまとめたものを、外国人観光客に発表することができる。 (思考力・判断力・表現力)
- 屋久島を訪れる外国人観光客に、屋久島の生き物の魅力を伝えたいという目的意識を持ち、専門家に意欲的に質問をしたり、発表したりすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「地域の専門家や外国人観光客との交流」「ネイチャーガイドとしての資料作り」を題材として取り上げる。屋久島で自然の調査・保護を目的に活動されているセンバスビレッジの専門家を招き、新しい知識を学び、活動への意欲を高める。次に外国人向けの山岳ガイドの方を招いて、簡単な英語表現を学ぶ。最後に実際に観光客に伝える活動を行う。このような人との交流を通して、人と繋がることの喜びや、共に学ぶことの楽しさを感じ、そのためのコミュニケーション能力の向上も図ることができる。

初めて来島する外国人観光客の目線に立って、島の自然をより理解できるように、工夫のある表現物を作成するなど、相手意識を持って活動することができるようになる良さがある。

(2) 児童観

小瀬田小学校には、ツバベニチョウの飼育小屋があり、毎年一回、屋久島のあおぞら高校で飼育されているツバベニチョウと交換会が行われていて、専門家を迎えて講話を聞いたり、資料にふれたりしてきたという背景がある。また生活環境が森や川に近いため、普段から自然の中で遊び、昆虫などの生き物にくわしい児童も多い。

また、屋久島には、様々な国籍の外国人観光客が来島するため、児童は直接関わることは少ないものの、バスの中で一緒になるなど、よく見かけている。ヨーロッパ圏からの観光客が多く、英語などを話すガイドのニーズが高いため、自らが得た知識を英語で発信するという経験をすることで、外国語に対する意欲の向上に繋がると期待できる。屋久島には屋久島ジュニア検定があるが、子供のネイチャーガイド・ボランティアはまだいないことから、この課題を取り上げる意義は大きい。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、まず屋久島の自然保護活動をしている専門家と山岳ガイドを招き、自分たちでは知ることができなかった自然界の話や、人間の生活との繋がりなどを学ぶ。その資料を元に、初めて来島する観光客に伝えるために、どんな工夫があるといいかを考える。

来島者や観光客の増加は、経済的には村の人々を豊かにするが、森の中に大勢の人々が入っていくために自然を壊して、生態系を脅かしている負の面があることに気付かせる。屋久島の美しい自然について、児童が伝えられるようになることで、来島者の自然保護への理解を深める役割となれると共に、自分の育った地域の美しさを知り、誇りを持つことができる。また外国人とのコミュニケーションを通して、国際的感覚を養い、国際的な平和のために役立つ活動ができる。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性：生き物の多様性を理解している。地域や文化の違いによって人々の価値観も違うことを理解している。

相互性：私たちの生活は自然環境と密接に繋がっていて、影響し合っていることを理解している。

有限性：人間が開発やお金のために大規模な伐採を行えば、動物は住めなくなり、自然環境に大きな変化を及ぼす。それは人間が享受してきた自然の恵みを得られなくなる事に繋がると理解している。

連携性：地域の人々や専門家と協力して、屋久島の環境保全に役立つことができる。

責任性：屋久島の豊かな森を次世代に引き継ぎ、健全な観光業界を作っていくために、ここに住む私たちは活動する責任がある。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

① 批判的に考える力 (クリティカル・シンキング)

地球環境について人を相手に説明するときに、正しく情報や想いを伝えられるか検討する。

② 未来像を予想して計画を立てる力

子供たちがネイチャーガイド・ボランティアとして発信している光景を想像しながら、その実現のために必要な情報収集や、学びを計画的に考える。

③ 多面的・総合的に考える力 (システム・シンキング)

森や自然、住民、研究者、観光客など、様々な立場から、屋久島の豊かな自然とその恩恵を受けている暮らしについて考える。

④ コミュニケーション力

専門家に意見を聞いたり、観光客に情報を伝えたりするという経験を通して自分たちの考えを表現する。

⑤ 他者と協力する態度

1人で行うよりも、複数人で行うことで、互いに教え合い、1人ではできないことが可能になって、活動が広がることを経験する。

⑥ つながりを尊重する態度

自然や人との繋がりを持ち、大切にすることで、すべては繋がっていることに気付く。

⑦ 進んで参加する態度

こどもは自分の考えを持っていて、相手を尊重しながら、金銭的な利益をもたらすアイデアを考えることもできるし、自然環境や人間社会に役立つ活動をすることが十分にできるという自信を持つ。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

・世代間の公正を意識できる

開発と保護の歴史の中で、先祖から受け継いだものを、自分たちが次の世代へ引き継ぐことが大切である。

・自然環境・生態系の保全を重視する (生物多様性の重視)

屋久島の豊かで珍しい自然とその生き物を大切に守っていくには、まず自分たちが理解を深めるために学び、それを来島する人々にも伝えてゆく必要がある。

・幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

コミュニケーションを通して、国籍を超えた人と人の繋がりを感じ、自分が住んでいる島の未来のために役立っているという充実感を感じる。

・達成が期待される SDGs (数字は SDGs の番号)

- 4, 質の高い教育をみんなに
- 10, 人の目の不平等をなくそう：外国人への偏見や勘違いをなくす。
- 11, 住み続けられるまちづくり：住環境に直結している森を守る。観光業を健全に保つことも暮らしを守る。
- 14, 海の豊かさを守ろう
- 15, 森の豊かさを守ろう
- 17, パートナーシップで目標を達成しよう：いろいろな人達と協力すると大きなことが達成できる。

4. 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>① 屋久島の自然について学び、獲得した知識を、言葉や絵、図などを用いて、それらに関係づけながらまとめる技能を身につける。</p> <p>② 外国人に説明するのに必要となる簡単な英語とその発音を理解する。</p>	<p>① 学んだことをもとに、それらの繋がりを考え、資料を作成する。</p> <p>② 資料をもとに、初めて訪れる外国人の目線に立って、大切な部分が正しく伝わるように考え、工夫をして表現している。</p>	<p>① 専門家の人から積極的に知識を得ようとして、目的意識を持って、関わろうとしている。</p> <p>② 外国人観光客と自分が学んだ知識を共有することで、屋久島の未来のために役立てることを理解して、自ら発信しようとしている。</p>

5. 単元の指導計画 (全3時間)

主な学習活動	○学習への支援	○評価 ・備考
<p>1 屋久島の自然について、専門家の方から話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋久島の特徴 植物、動物、気候、観光者の増加、自然環境への影響など 	<p>1 過去に子供たちが調べて集めた資料を提供し、屋久島の特徴に気付かせる。専門家の話をきっかけに、自然界のつながりと、里に住む人間とのつながりについて考えさせる。</p>	(総合)
<p>2 屋久島で英語山岳ガイドをしている人を招いて、外国人観光客に伝えるときに配慮することや、子供たちが伝えたいことをどのような英語表現にできるのかを教えてもらう。屋久島紹介カードなど制作物を作り、英語で伝えられるように練習する。</p>	<p>2 ふだん外国人観光客と話す機会が少ないため、この機会にたくさん質問ができるように促す。簡単な英語表現で伝えられるように講師に教えてもらいながら工夫させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人から見た屋久島の魅力 ・外国人観光客に分かりやすい説明 ・簡単な英語表現と、正しく伝わる発音 ・専門的な説明は英文で記載する <p>制作物は、色ペンを使って、見やすさ、伝わりやすさを考えて作るように促す。</p> <p>各部分の英語文が、相手に伝わるように発音やリズムに気を付けて練習をくり返す。</p>	(外国語)

<p>3 フェリー乗り場など実際に観光客が集まる場所へ出向き、制作物を利用しながら、屋久島の自然について英語で伝える。最後にふりかえりを行う。</p>	<p>3 Welcome to Yakushima. の言葉と共に、観光客に制作物を見てもらえるように工夫する。英語を間違えたり、忘れてしまったりしても、ジェスチャーも使って伝える努力をする。外国人観光客の反応やコメントを、メモに残して、最後にみんなでふりかえる。</p>	
---	--	--